

行事報告

ザ・シンポジウムみなと in 紋別

「ザ・シンポジウムみなと」は、港湾の重要性や必要性を理解していただくとともに、広く港湾をPRすることを目的として開催しており、令和6年9月26日(木)に紋別市民会館において32回目のシンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムは「紋別港の将来を考える ～『みなと』を核とした交流人口の増加～」をテーマとして講演とパネルディスカッションを行い、紋別港の果たす役割や将来像について有識者が意見を出し合い、約150名の方が熱心に聴講されました。

はじめに、主催者を代表してザ・シンポジウムみなと実行委員会の魚住聡 委員長、開催地を代表して宮川良一 紋別市長から開会の挨拶がありました。

第1部の講演では、「紋別港から発信する地域交流増加について」と題して、武者加苗 札幌大学地域共創学群経済学系教授から、魅力あふれる海洋の資源やアラシ保護施設等といった人を引き付けるコンテンツ

発信の工夫と、ふるさと納税の活用や体験観光による交流人口増加の方策等についてご講演いただきました。

第2部のパネルディスカッションでは「紋別港を核とした研究と観光による交流人口増加の取り組みについて」をテーマに、ご講演の武者教授に加え、宮川良一 紋別市長、竹内珠巳 みなとオアシスもんべつ運営協議会代表、大塚夏彦 北海道オホーツク流水科学センター所長の4名が登壇し、フリーアナウンサーの渡辺陽子氏をコーディネーターとして討論が行われました。

竹内代表からは紋別港の他地域にはない観光資源について、大塚所長からは北極研究における流水南限としてみなとの変化把握意義と北極研究船の活用について、宮川市長からは観光施設の経済効果や宿泊施設不足の課題について、武者教授からはSNS活用による情報発信の必要性やクルーズ船利用の可能性等に対してそれぞれ発言され、理解が深まりました。

また、会場入り口ホールにおいて、NPO 法人北海道みなとの文化振興機構による「みなとパネル展」も開催され、多くの方にご覧いただきました。

第1部 講演状況



第2部 パネルディスカッションの 状況



※シンポジウムの内容(挨拶、第1部の講演、第2部のパネルディスカッション)は、次回発行する「海と港」に掲載いたします。パネルディスカッションの動画(約90分)は、寒地港湾空港技術研究センターのホームページにてご覧いただけます。

**ザ・シンポジウム
みなと in 紋別**

**紋別港の将来を考える
～「みなと」を核とした交流人口の増加～**

令和6年9月26日(木) 15:00-17:30
会場：紋別市文化会館
紋別市幸町3丁目1番8号
アクセス: <https://mombotss.jp/education/?content=284>

講演
紋別港から発信する地域交流増加について
武者 加苗 氏
札幌大学地域共創学群経済学系教授

パネルディスカッション
紋別港を核とした研究と観光による交流人口増加の取組について
宮川 良一 氏
紋別市長
竹内 珠巳 氏
みなとオアシスもんべつ運営協議会代表
大塚 夏彦 氏
北海道オホーツク流水科学センター所長
渡辺 陽子 氏
フリーアナウンサー

「ザ・シンポジウムみなと」実行委員会事務局
事務局：紋別市文化会館3階303号室
TEL: 0157-142144
FAX: 0157-142145
Eメール: info@mombotss.jp
Web: <https://mombotss.jp/>

シンポジウム参加費は、主催者負担(参加費は無料)です。
交通費は各自負担となります。